

1975. 12

「推薦図書」をめぐって

教養図書館長 立川 昭二

いま、君たちの手許に、「推薦図書」と題した黒表紙のリーフレットをおくばりました。これは、教養部の先生がたが、自分の専門の分野をこえ、人生の指針となる本、青春時代の栄養となる本を、ひろい立場から、5冊以内えらんでいただいたものです。

本との出会いは、あくまでも自分自身で求めていくものです。私たちとしても、君たちに、この本を読みなさい、というのは、いくぶんの“ためらい”を覚えます。しかし、あえてその“ためらい”をすて、本の世界と君たちとをつ

なぐさやかな試みをやってみたわけです。

教養図書館の一隅に並べてあるこれらの本は、さっそく君たちの手によって開かれています。私たちの投げた小石が、君たちの心のなかに、ある波紋となっていくことを願っています。

これからしばらく、この「閲覧ニュース」で、先生がたに御登場ねがい、「本と私」というシリーズをつづけていく予定です。読書について、本について、先生がたの個性あふれるたのしいお話がきかれることでしょう。

< 学内他館の案内 >

① 白金図書館

開館予定 12月25日まで開館
1月5日から開館
長期貸出 期間 12月15日から1月14日まで
冊数 1人3冊まで

② 医学図書館

開館予定 12月27日まで開館
1月5日から開館
長期貸出 期間 12月22日から1月6日まで

③ 衛生図書館

開館予定 12月27日まで開館
1月5日から開館
長期貸出 期間 12月8日から1月12日まで
冊数 1人2冊まで

冬休み

長期貸出しについて

冬休み長期貸出しについてお知らせいたします。

貸出期間 12月10日(水)より
1月10日(土)まで

貸出冊数 1人 3冊まで

年末年始開館予定

年末 昭和50年12月25日まで開館
年始 昭和51年1月8日から開館

ある本によせて

高橋 康子（体育）

「……つまり、話をきくということは問うということなのである。…（略）…とりわけ若い学生たちに欠落している能力は、問う能力だ、とわたしは思う。…（略）…学生は先生を使うことをもっとかながえるべきなのだ。……」

これは、わたくしが通勤する電車の中で読んだ本のなかにあった一節である。

加藤秀俊氏(学習院大学教授)の「取材学—探求の技法—」(中公新書)という本のメインテーマのひとつである耳学問のすゝめの中にある。

この本は、ものを知ろうという欲求を効率よくするための手づきを述べることをねらっている。わたくしたちの身近な問題に触れ、興味ある考えを展開している。ものをきくという行動も立派な取材の方法として、もっとたいせつに考えなければならないといっているのである。

つねづね、わたくしが、人々とつきあっている時に感じる漠然としていたことが、この本によって、何かつかめたような気がする。

対話をもつということは、まさに、問題意識をみづからもって、つねに問うという形になってこないと、馬耳東風ということになるのではないだろうか。そればかりか、自分の好奇心や、知る欲求も満足されないだろう。さらに、話をきくのは、話し手の思想を知ることでもある。人との交わりを高めようと考えても、そう思っているだけでは高まらない。実際にわたくしたちが、きく態度で、しかもそう行動すること以外にはないのではないかと思う。

本を読んでいると、このように、わたくしたちの頭のカatalogにないものを満たしてくれたり、啓発してくれたりする。そして、ほかで味わえないよろこびを感じることができる。

推薦図書について

入手 譚雄（数学）

過日図書館の企画に応じて数冊の図書を推薦しましたが、出来上った小冊子を一読していただきか気恥かしいのです。何故なら、僕の選択は多分に思いつきであり、自分自身にとっても実は重い本だったからです。それを正直に記した上で、推薦したわけを書いてみましょう。

一体、私達の日常は言葉のやりとりに明け暮れているけれど、一日が終ったとき、心に残る言葉は殆んどないのではないのでしょうか。けれど、時たま心優しい人に会って、意味のない会

話を少しして、別れるとき微かに交わした挨拶の一言などが、ずっと心に残って、ふと思い起こすとき安らぎの広がるのを覚えることがあります。どうも言葉とは、その人のその時々落实到ゆく形見なのではないかと思われま

ところで、ここに一つの語句があります。

萬里悲秋常作客	（ ばんり ひしゅう つね 萬 里 悲 秋 常 に かく な ひやくねん 客 と 作り 百年 たびょうひと たい のぼ 多病 独り 台に登る ）
百年多病独登台	

これは杜甫晩年の詩中のものですが、僕はこれを読むだけで、この詩人の苦難と誠意に満ちた生涯をまざまざと思いやります。そして人の一生について、さまざまな思いにひたることができます。この句は杜甫を待ってはじめて生れたのではないのでしょうか。言葉が人を待ってはじめてその真の切実さを帯びることができるのか、人が現われてその苦闘の所産として真に切実な言葉が生じるのか、当然後者でしょうが、僕に

は区別がつかなくなるときがあります。

誰によって生み出されたにせよ、切実な言葉は、片言にして無条件に僕を感動させ、時間を越えてその人への慕わしさと畏敬の念を呼び起こします。学生の皆さんに、そういう人達の放つ、人としての輝きを胸裏に我がものとして受け止めて生活していつてほしい。そんな願いを込めて先の図書を推薦した次第です。

本 と 私

綱 島 窈（英語）

本との出会いには雰囲気があった。微くさい独特の古本の匂い。私の家には私がちいさいときから薄汚れた本がごろごろしていたせいかもしれない。学生のころ新しい本といえば教科書くらいのもので、手当たり次第、といっても僅かな小遣いが許す限りのこと、従って安いことも条件になって、やたらと買いこんだのは古本ばかり。昭和の10年代から戦後へかけて昭和30年頃までは東京には神田以外にも古本屋が多かった。通学から通勤に変わっても途中下車までして古本屋めぐりをしたのも今では思い出のようになった。

1冊の本にじっくりとり組む、そういう経験がその頃の私にはなかった。といって好奇心が旺盛で何にでも興味を持つという活力もなかった。私のはただじわじわと本の匂いに浸って、醸し出される陶酔を求めたに過ぎなかったように思う。それでもその陶酔の中味にはだんだんと色がついてくる。この人の本なら何でもよい。中勘助の本を見つけ次第買ってきたこともあつ

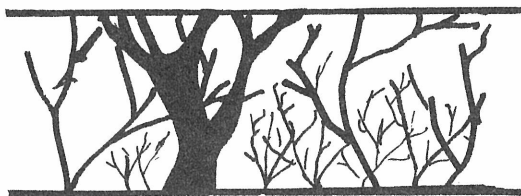
た。どこの古本屋でそのどの本にめぐり会ったか、その古本屋の店の様子、そのおやじの風采、そんなものがいつまでも消えずに浮び出てくることもあった。

私はまわり道ばかりするときどき反省したり悔んだりする。もう少ししっかりした芯があったら、ただ陶酔するだけでなく何らかの実りがあったのではなかろうかと。芯になるのは自分以外の何ものでもない。とするとまわり道も何もあったものではない。けし粒の芯に砂糖とメリケン粉がからみついて1粒の金平糖が出来上がる。それも実りだと思えばかりである。

Everyman's Libraryのカバーの背に錨に魚がまきついている商標がある。河野与一氏によればこれはいろいろな書物に見られるもので、ヴェネツィアの出版者が16世紀から使い出したもの、魚は海豚で速さを表わし錨は安定確実を表わしFestina Lente、ゆっくり急げというラテン語の意味を蔵しているとのこと。本とはつまりそんなものだという風にもとれる。

図書館入口の前のロビーに、新聞架が設けてあるのは良くご存知とは思いますが、9月から地方紙6紙が登場したのに気付いた方はおいででしょうか。

- 故郷のなつかしい便りを、あなたにお知らせ
できれば幸いです。



皆様からの図書購入申込については、できる限り希望に添う様にしておりますが、下記の雑誌4点に関して図書委員会に於て購入否と決定されましたのでお知らせいたします。

- 1) 雑誌「終末から」 筑摩書房
- 2) 〃 「スクリーン」
- 3) 〃 「週刊ベースボール」
- 4) 〃 「モーターマガジン」

寒さはますます、厳しくなりますが、楽しい
冬休みに風邪等ひかないで、新しい年には又、
元気な顔を図書館に見せて下さい。

ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識ニ知識
ご存知ですか！
複写サービス

- て所定の用紙に記入の上、複写することができます。

- | | |
|-----|------|
| 受 付 | 受 渡 |
| 午前中 | 12 時 |
| 午 後 | 4 時 |

※ 午後4時以降は、複写致しません。

発行責任者 立川昭二